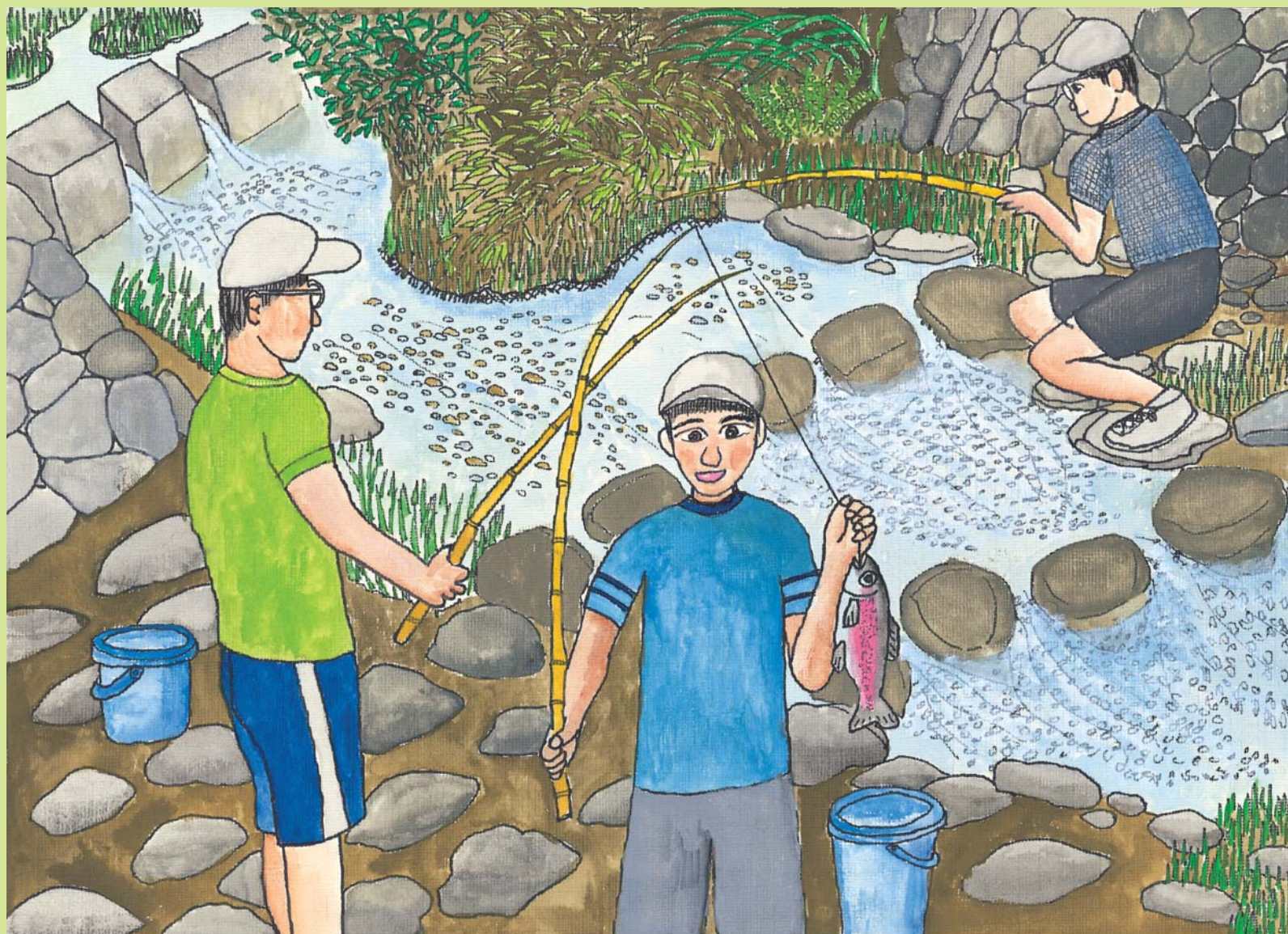


平成十九年度 入賞・最終選考作品集



主催／福島県教育委員会

わくわく体験



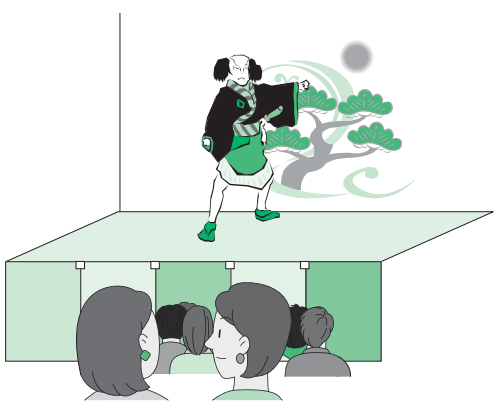
子どもと大人がペアで作る

五・七・五

# 十七字のふれあい

表紙は平成18年度「家庭の日」絵画の部最優秀作品です。

# 入賞作品



## 最優秀賞

目の前は 拍手喝采 晴舞台

檜枝岐村立檜枝岐中学校

三年 星

雄介

三番叟<sup>さんばそう</sup>

舞台の我が子 堂々と

母 星

二三子

〈創作の動機〉

歌舞伎の前に、舞台を清める為に行う三番叟をやったとき、観客の拍手がとてもうれしかったです。

〈評〉

伝統文化を担う誇りと意義、それと作者・親子がその晴れ舞台で確かな成長を実感し合っている姿と重なり合います。

強い感動体験がひしひしと伝わってきます。

〈塚本 繁〉

前よりも 母が小さく 見える夏

川内村立川内中学校

一年

猪狩 有紀

”背くらべ“ やたらしたがる 末娘

母 猪狩

久美子

〈創作の動機〉

近頃、末娘は何気に私の隣に来てはにっこりします。そこへ姉たちも寄ってきて、次々と背比べが繰り広げられるようになりました。今日この頃の母としては嬉しい出来事として表現しました。

〈評〉

なんともほほえましい情景ですね。読む人を引き込み、この親さんとお子さんの世界をまざまざと見せてくれます。五・七・五のリズムがよく、ことばづかいがすっきりと洗練されていて非の打ちどころがありません。今後の精進を期待します。

〈津村 栄〉

にわか雨 町を冷やして 遠ざかる

会津坂下町立坂下小学校 六年 鈴木孝太

雨やどり 子とあおぐ空 虹かかる

父 鈴木隆一

〈創作の動機〉

お父さんと暑い日に町に行つた時、急に雨が降ってきました。ずいぶん暑くなつてうれしくなりました。町のみんなもずいぶん暑くなつてよるこんでいるような気がして作品づくりをしました。

〈評〉

すがすがしさに身が包まれる思いがします。とくにお子さんの作品は大景(大きな情景)をよくまとめていて申し分ありません。お父さんも愛しいわが子への気持ちに虹に託すように見事に表現されました。このすばらしい親子関係よ、永遠にと切にお祈りします。

〈津村 栄〉

「大好き！」と 触れ合う肌の 温かさ

郡山市立郡山第二中学校 三年 佐藤 雅

抱きとめた 腕に確かな 歳月か

母 佐藤久美

〈創作の動機〉

母に「大好き！」と言って抱きついていた時、肌と心がとても温かくなりました。親子のスキンシップはやはり大切だと思いました。

〈評〉

お母さん「大好き！」と抱きついていく娘さんの素直な心。その心を優しく受け止めるお母さんの広い心。真つ直ぐにすくすくと育つお子さんと感激きんご一入のお母さんの情感が読み取れるすばらしい作品です。

〈坂本 忠雄〉

うどんふむ 今日だけ私は おすもうさん

飯館村立草野小学校 三年 石井理央

まかせてね コシを出すため 母出番

母 石井己香

〈創作の動機〉

夏休みいろいろなことにチャレンジしてみようと思っていました。今年は、自分で作ったうどんを食べてみたくて家族で作りました。お店で買ううどんや、お店で食べるうどんよりすこくおいしかったです。

〈評〉

手打ちうどんをおいしく作るには「強く踏むことだよ」と、お家の人から言われたでしょう。下の句の「おすもうさん」の比喩表現でよくわかります。また、頑張るお子さんを見守るお母さんの温かい眼差しを感じる素晴らしい作品です。

〈坂本 忠雄〉

# 優秀賞

田の中で 土たち足を くすぐるよ

二本松市立油井小学校 三年 齋藤 敏 貴

初めての 孫との田植 まずおやつ

祖母 齋藤 力子

〈評〉

田植え手伝いという貴重な体験。さらに田んぼの中での奇妙な感触を「足をくすぐる」と自分の言葉で詠んでいるなど素晴らしい作品です。お婆さんの作品からは、危なっかしい様子をほらはらしながら見守る温かい視線がじわーと感じられます。

〈坂本 忠雄〉

虫たちが 負けじと音を 奏でだす

郡山市立郡山第二中学校 一年 佐久間 夏花

ヴィオラ弾く 娘励ます 秋の虫

母 佐久間 美和子

〈評〉

お子さんが奏でる美しい音色に刺激され、虫たちも負けじと歌を競い合う中で、演奏と虫たちの楽しいコラボレーション。頑張るお子さんと、日々上達する娘さんの演奏にうっとり聞き入るお母さんの想いが作品から伝わります。

〈坂本 忠雄〉

ドキドキと ちょうになるのを じっと待つ

いわき市立郷ヶ丘小学校 四年 石井 志苑

子育てと 同じ気持ちで 羽化を待つ

母 石井 エミ

〈評〉

「生命の誕生」を具体的に即した「羽化」に立ち会うことよって、高まる緊張感とその神秘性に心が誘われました。この体験が親子のかけがえない共通の宝物となるでしょう。

〈塚本 繁〉

いもうとに なつもまいにち えほんよみ

棚倉町立棚倉小学校 一年 小野里 豪人

蝉鳴いて 家族団欒 読み聞かせ

母 小野里 典子

〈評〉

お兄ちゃんの読み聞かせを聞いている妹さんの真剣な表情が思い浮かんで、とても温かい気持ちになります。また、この様子を笑顔で見守る家族の温もりが「家族団欒」の言葉から伝わる素晴らしい作品です。

〈坂本 忠雄〉

流れ星 「あつ」しか言えない 願い事

浪江町立津島中学校 二年 佐藤 ゆきえ

流星を 見上げて吾子の 幸願う

母 佐藤 孝子

〈評〉

流れ星に願いをこめる様子がよく出ています。特に娘さんの『「あつ」しか言えない』の表現がすばらしく感動いたしました。流れ星よ、この親子に幸多かれとお祈りします。

〈津村 栄〉

望遠鏡 のぞけばうちゅうが 大せつきん

会津若松市立河東学園小学校 四年 五百川 渉

星空を ながめるその目に 天の川

母 五百川 邦 江

〈評〉

天体望遠鏡を初めて見た感動が素直に伝わって来ます。「うちゅうが大せつきん」「その目に天の川」などの表現に心が打たれました。お母さんの子どもさんを見る温かい心がすばらしいと思います。

〈坂本 忠雄〉

父の手を しんじてめざす はつゴール

鏡石町立第一小学校 一年 津 金 大 勢

つなぐ手で 深めた絆 初レース

父 津 金 光 彦

〈評〉

マラソン大会親子の部に参加したときの思いが情感豊かに表現されている素晴らしい作品です。「父の手をしんじて」と言うお子さんの言葉と、「つなぐ手」のお父さんの言葉から、父と子の強い信頼感を読み取ることが出来ます。

〈坂本 忠雄〉

心地よく 部活の汗に にわか雨

南相馬市立小高中学校 二年 白 土 あすか

夕立ちに 傘をかかえて 急ぐ道

母 白 土 尚 子

〈評〉

部活動にいそむわが子に協力し、それを見守る母親に頭がさかります。この心があればこそ、お子さんが部活に熱中できるのでしよう。娘さんの「部活の汗にわか雨」のとりえかたはすばらしいものです。その感覚をさらにみがいてほしいものです。

〈津村 栄〉

祖母とする うでずもうでは 力ぬく

磐梯町立磐梯第一小学校 五年 古 川 若 菜

まだまだと 力こぶより 声ばかり

祖母 古 川 まち子

〈評〉

ほほえましい光景ですね。お互いに相手を思いやる気持ちがよく出ています。おばあちゃん「力こぶより声ばかり」に、温かい関係をうかがうことができます。お孫さん、おばあちゃんをいつまでも大切にしてくださいね。

〈津村 栄〉

ともだちと おとまりほいく よかつたよ

私立わかば幼稚園 年長 伊 東 凜 乃

「また明日」 あつさり手を振る 母さみし

母 伊 東 美由紀

〈評〉

身二つになり、やがて自立心が芽ばえて、心も親から離れていきます。この成長発達に直面して、親として内心複雑な思いがひしひしと感じられます。

〈塚本 繁〉

# 佳作

# 審査員特別賞

久しぶり 母との会話 花を摘む

白河市立白河第二中学校 二年 荒井 静香

むらさきの 花も顔く 子のはなし

母 荒井 京子

白いくも つかむぞめざせ 山の上

矢吹町立善郷小学校 二年 酒井 純輝

子を追って 安達太良の岩 よじ登る

母 酒井 律子

マラソンで 父とならんで あせながす

泉崎村立泉崎第二小学校 三年 松本ひかる

足音で 娘の疲れを 心配し

父 松本 和久

矢のように バシッとささる 父の球

白河市立五箇小学校 五年 鈴木 庸紘

手のひらに ひりひり伝わる 子の投球

父 鈴木 弘喜

おおごえで うたうわたしは あいどるよ

南相馬市立真野小学校 一年 桑折有利沙

母と子で うたう車中は コンサート

母 桑折 友美

今晚も 音読やろう おじいちゃん

福島市立中野小学校 五年 渡辺 徹

音読で 孫とふれあう 日課かな

祖父 渡辺 章

てづくりの ほくのうどんは せかいいち

須賀川市立第二小学校 三年 佐藤 佑樹

うどん打ち 「子の宿題」が 「母の趣味」

母 佐藤 和代

受験生 四角いリングに 立ち向かう

福島県立南会津高等学校 三年 馬場 翔吾

最後まで タオルは投げない 君の人生

教師 本田 亜希

山の風 出てくる汗を ふき飛ばす

郡山市立富田東小学校 五年 渡邊 椋介

汗さえも 宝の山の 恵かな

母 渡邊 和子

ばあちゃん きゃつちぼうる たのしいな

福島市立佐原小学校 一年 館内 友希

ボール投げ 孫よりとばぬ はずはない

祖母 館内 秀子

あさがおが 手をつないだよ ひまわりと

喜多方市立第一幼稚園 年少 木村 文音

向日葵に 娘の笑顔 重ねつつ

母 木村 和枝

くるあげは きれいなはねで とんでゆく

相馬市立日立木小学校 一年 日下 聡太

夏空に 孫と育てた クロアゲハ

祖母 日下つや子

新ぼんの なすの足つけ むずかしい

いわき市立湯本第二小学校 四年 奥井 優

無器用な 茄子の足つけ 祖母の笑み

母 奥井ひとみ

七行器 祖父から孫へ 祇園祭

郡山市立郡山第二中学校 一年 星 穂奈美

高島田 孫あでやかに 祇園祭

祖父 黒川 諭

一枚に こだわる父の 家族写真

福島市立福島第二中学校 二年 大橋 千春

シャツターを 押してこの夏 閉じこめる

父 大橋 政之

今やれば 冬はあったか まきはこび

いわき市立平第五小学校 三年 足立 太雅

汗ぬぐい 割った薪が 暖炉の炎

父 足立 直樹

うれしいな 手話で会話 おぼえたよ

相馬市立桜丘小学校 五年 逸見 絵奈

これなあに 親子で学ぶ 指言葉

母 逸見 清美

とんぼとり まずはめとめで にらめっこ

南会津町立針生小学校 一年 星 潤次郎

畑にて 息子とはんぼで 母きゅうり

母 星 真紀

気を込めて 共に汗かき 剣を振る

喜多方市立高郷中学校 三年 荒明 晃平

早九年 剣で交わした 会話かな

母 荒明美恵子

できないよ まつりだいこの リズムうち

白河市立関辺小学校 三年 鳴島 俊輔

晴れ舞台 目指し一緒に 膝太鼓

祖母 鳴島あや子

# 奨励賞

なつの上に プラネタリウム 見つけたよ  
石川町立母畑小学校 三年 鈴木 蓮  
大画面 ねむけもふつとぶ 美しさ  
母 鈴木 泰子

流星群 願いを込める 夏の夜

飯野町立飯野中学校 二年 鈴木 菜生

君の夢 叶うようにと 願う夜

父 鈴木 祐一

クワガタも なにもとれず ハチさされ

川俣町立川俣小学校 二年 菅野 充

孫のため クワガタ狙い 意地になる

祖父 菅野 藤吾

水の中 ジャンケンできた うれしいな

伊達市立保原小学校 二年 高橋 明子

泣き顔が 笑顔にかわる 水の中

母 高橋 泰子

クローバー いつもきれいに さいている

桑折町立醸芳幼稚園 年長 八木沼佑莉

草むしり 残しておくよ クローバー

父 八木沼 裕

おかあさん おおきななみだ てつないで

国見町立藤田小学校 一年 菊地 諒

握る手に 波の大きさ 子の強さ

母 菊地 美幸

みつけたよ よぞらにひかる ほしのうみ

大玉村立玉井小学校 四年 伊藤 友哉

きれいだね むすことふたり ほしをみる

母 伊藤 篤子

父の球 取りそこなつて またダッシュ

本宮市立岩根小学校 四年 伊藤 宏太

キャッチボール ボール探して 日が暮れる

父 伊藤 忠宏

朝顔の 花楽しみに 数えてる

天栄村立広戸小学校 三年 落合みつぎ

手入れた 朝顔応える 花の数

祖父 落合 孝男

小さな目 大きく開いて お水やり

浅川町立浅川小学校 四年 近藤ななみ

寝呆けた目 ジョウロ抱えて 花のもと

母 近藤いづみ

パパのせに ころをべたべた たのしいね

古殿町立田口小学校 一年 佐々木 円

海岸で 恐がる子供 背に負い

父 佐々木 隆

どしゃぶりに 負けず笑顔で おどるぼく

平田村立永田小学校 五年 渡辺優希也

雨の中 笑顔で踊り 魅了した

父 渡辺 雅彦

全力で およぎきつたよ 最後まで

田村市立門沢小学校 四年 小石沢知哉

力泳に 鳥肌立てて 感動し

母 小石沢ひと美

おいしいよ さるからまもった トウモロコシ

玉川村立玉川第一小学校 二年 白井ひかり

猿狸 これはやれない 孫のもの

祖父 白井 守

ふるあらい じゃぐちまちがえ みずかぶる

三春町立中郷小学校 一年 村上 瑞希

ありがとう 頼りになるよ わが娘

母 村上 久子

尾瀬歩き 親子なかよく 一歩ずつ

小野町立小野新町小学校 五年 大川原千裕

背中おす 子のたくましさ 初秋の尾瀬

母 大川原幸子

門火たき 満天の星と お出迎え

西郷村立西郷第二中学校 二年 柴田 真子

迎え火に 在りし日の顔 見え隠れ

母 柴田サワコ

雨つぶが まじごであばれて にじになる

中島村立滑津小学校 三年 古市 恵真

七色を 数える顔は うれしそう

母 古市 澄子

風吹くな 線香花火に 願い事

埴町立埴中学校 一年 吉田 敦子

手を広げ 囲んで見入る 火の小玉

母 吉田 睦子

父バッター 次の二球 勝負球

矢祭町立矢祭中学校 一年 金澤 一希

ツースリー 妻の審判 子に有利

父 金澤 憲一

収穫の 喜び抱きて 家路ゆく

鮫川村立鮫川中学校 二年 小森 雅子

食卓へ 届いた夏に 腕ふるう

母 小森多恵子

工夫して すごい本だな 作ったよ  
 会津美里町立本郷第一小学校 五年 田中 慎也  
 かなづちを たたいてはすむ 子と会話  
 父 田中 浩二

キャンプでは 一人でねたよ だいじょうぶ  
 猪苗代町立猪苗代小学校 三年 阿部 周平  
 ガンバレと 祈る気持ちで 朝を待つ  
 母 阿部 宏子

つかまえた 羽大きいね オニヤンマ  
 金山町立金山小学校 二年 坂内 温美  
 教室に 乱入したか オニヤンマ  
 教師 山口 京子

パパのくつ はいてさんぽし ねんざした  
 北塩原村立裏磐梯小学校 三年 斎藤 葉奈  
 あぶないよ 口でいっても 目が笑う  
 母 斎藤 順子

あれなあに 家族で星見て 星座当て  
 昭和村立昭和中学校 一年 栗城 沙羅  
 天仰ぐ まぶたに残るは このひととき  
 母 栗城ひろ子

稲の穂に 初めて見たよ 白い花  
 西会津町立西会津中学校 一年 渡部 和也  
 後戻り 出来ぬ齡やわや 早稲熟る  
 祖母 渡部 米子

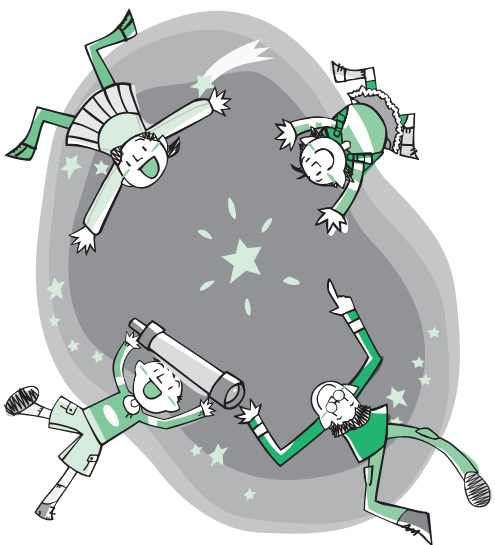
夏の夜 虫の合唱 聞こえてる  
 三島町立三島小学校 五年 佐久間祥吾  
 暑い夏 虫を求めて 夕涼み  
 母 佐久間絹江

ふしぎだな パパのヨーヨー なぜもどる  
 柳津町立柳津小学校 三年 小川 真愛  
 何回も 真似て投げる子 笑みあふれ  
 父 小川 茂樹

お手伝い 私もできるよ オムツがえ  
 湯川村立笈川小学校 六年 塩川 瑞樹  
 母の座を 脅かすほど 手際よし  
 母 塩川 由美

また来てよ 心をこめて はかそうじ  
 只見町立朝日小学校 四年 渡部 早紀  
 新盆や 子らによりそう 祖母の笑み  
 母 渡部 敦子

ほたるくん よるのおそらで うんどうかい  
 下郷町立旭田小学校 一年 佐藤 紅羽  
 永久とこしえを 川面に託し 螢かな  
 祖父 佐藤 武行



夏の海 白い貝がら 見つけたよ  
 新地町立新地小学校 二年 小野 茜  
 貝がらを 耳にあてれば 夏の音  
 母 小野 栄子

父さんと ロケットとばして せいこうだ  
 大熊町立熊町小学校 二年 内山雄太郎  
 蒼あざい天 突き抜けるよな 希望のぞみもて  
 父 内山 貴志

てのなかに すずめのこども かわいいな  
 葛尾村立葛尾小学校 一年 福井 優真  
 微笑んで 小さな命 見る息子  
 母 福井香奈子

くうきぼう けむりのわつか どおなつだ  
 富岡町立富岡第二小学校 一年 鈴木 雄翔  
 サイエンス 子供も親も 大感激  
 母 鈴木 清美

おとうさん でっかいうんこ だれのもの  
 榎葉町立榎葉南小学校 二年 古市香菜子  
 あのオブジェ ウケにウケてた 東京で  
 父 古市 寿正

飛ぶのかな 飛びますように 竹とんぼ  
 双葉町立双葉中学校 三年 佐藤 亮太  
 竹とんぼ 飛ばした空に 子の笑顔  
 父 佐藤 浩美

おじいちゃん おひさまの味 ありがとう  
 広野町立広野中学校 三年 鈴木二妙香  
 孫たちの 笑顔励みに 畑仕事  
 祖父 鈴木 香苗



# 最終選考まで残った作品

満点の 星空にほら 流れ星  
 福島市立笹谷小学校 四年 伊藤 舞衣  
 孫のため 張り切る父は 星博士  
 母 伊藤美紀子

手を出され はずかしいから しらんぷり  
 福島市立荒井小学校 三年 鈴木 大梧  
 意地をはり 出したこの手は ひっこめず  
 母 鈴木 奈緒

じてんしゃで ほじょりんなしで はつせいこう  
 福島市立瀬上小学校 二年 小松 汰雅  
 ささえた手 離れた時は さみしいな  
 父 小松 禎文

バーベキュー すみの火おこし ぼくかかり  
 福島市立佐倉小学校 三年 小野 拓人  
 初キャン普 家族で協力 テント張り  
 母 小野重紀江

わたしより 元気に歩く おばあちゃん  
 福島市立佐倉小学校 四年 松野 優花  
 ご褒美を ぶらさげ誘う 散歩道  
 祖母 松野美恵子

つばめの巣 ひなもうまれて にぎやかだ  
 福島市立佐倉小学校 六年 林 早希  
 やつてきた つばめはこんだ しあわせが  
 母 林 美紀子

見つけたよ しあわせをよぶ クローバー  
 福島市立月輪小学校 二年 加藤 累  
 見ていたよ その瞬間の その笑顔  
 母 加藤 尚子

ながれぼし みつけたんだよ 二十七  
 福島市立蓬萊東小学校 六年 及川富美子  
 声合わせ 親子で見つけた ながれぼし  
 父 及川 義道

ひみつのき くわがたいっぱい みつけたよ  
 福島市立森合小学校 一年 古山 大夢  
 ねむい目を こすって急げ! ヒミツの木  
 母 古山 安恵

むかえ火に ほうこくしたよ 通信ほ  
 福島市立三河台小学校 三年 安倍 尚貴  
 新盆に 小さな手合わす 我が子かな  
 母 安倍 幸子

ももがりは いっぱいとれて うれしいな  
 福島市立笹谷小学校 一年 伊藤 萌  
 とりたててを 頬ばる児らや 桃笑う  
 祖母 高橋 マサ

ぼくのゆめ つばさを広げ 大空へ  
 福島大学附属小学校 三年 佐藤 翼  
 夢かなう そんな気がする ひこうき雲  
 母 佐藤 美香

青空の 線路を進む ローカル線  
 飯野町立飯野中学校 一年 伊藤かやな  
 鈍行で 変わる景色に 感動す  
 父 伊藤 孝行

しちならべ しんけんしようぶだ まけないぞ  
 伊達市立梁川幼稚園 年長 萩原 大成  
 七並べ 母はうれしい その真顔  
 母 萩原 雅美

夏祭り 太鼓三昧 豆三つ  
 伊達市立伊達小学校 六年 久保 董  
 勇ましく 男顔負け 大太鼓  
 母 久保重矢子

夏休み そぼといっしょに 漢字書く  
 伊達市立石田小学校 三年 渡辺 賢太  
 メガネ手に 負けてたまるか ペンを持つ  
 祖母 渡辺 和子

立ち合つて 新しい命 迎えるぞ  
 二本松市立岳下小学校 六年 佐藤 滉祐  
 堂々と 見える姿に たのもしさ  
 母 佐藤 美枝

ぼくりようし おさかないっぱい とつちやうよ  
 二本松市立針道小学校 一年 黒須 泰治  
 母安堵 海探検の 息子の背  
 母 黒須 博美

たきの水 白く光つて つかれ飛ぶ  
 大玉村立玉井小学校 四年 鈴木 稔之  
 山登り 小さい手をひく 兄の愛  
 父 鈴木 淳

光つてる 走るのわすれ ホタル取り  
 本宮市立白岩小学校 三年 力丸 侑大  
 ほたる見て 息子と走る 田んぼ道  
 母 力丸 玉江

さわったよ はじめての滝 つめたいよ  
 本宮市立岩根小学校 四年 宍戸 涼  
 滝の音と 子供の笑顔に 癒される  
 母 宍戸 浩巳

やまのぼり つかれたときは かりんとう  
 郡山市立緑ヶ丘第一小学校 一年 縄野 咲  
 かりんとう 娘と分ける 夏の森  
 父 縄野 正衡  
 こうしさん ごめんなさいと ちちしほり  
 郡山市立行徳小学校 一年 緑川ひなた  
 子の額ぬかに 汗うつつらと 乳しほり  
 母 緑川 千穂  
 しその葉が 赤から緑に 大へんしん  
 郡山市立桃見台小学校 三年 黒澤 梨紗  
 しそジューズ 母が作った 夏のあじ  
 母 黒澤 路英  
 最高だ 風をきるきる ぼくの顔  
 郡山市立大成小学校 三年 菅野 那憲  
 追いかける 後ろ姿に わく心  
 母 菅野由美子  
 夏の空 ゴルフボールが 風きって  
 郡山市立桑野小学校 三年 遠藤 周  
 オニヤンマ ナイスショットの 球ボール追い  
 父 遠藤 秀雄  
 ひまわりが わきてた雲を にらみつけ  
 郡山市立日和田小学校 三年 西方 彩乃  
 向日葵が 紺碧の空へ 立ち向い  
 祖父 西方 市郎  
 バケツ稲 おいしいお米 できるかな？  
 郡山市立桑野小学校 五年 中山 美佳  
 「穂が出たよ！」 水をかけかけ 大はしやぎ  
 母 中山 智子  
 かこのなか ぼくのむしたち おともたち  
 希望ヶ丘幼稚園 年少 上遠野拓幹  
 せまそうな むしかこのなか 子のたから  
 母 上遠野弘子  
 さがらずに たいしょうあいてに 小手二本  
 郡山市立行徳小学校 四年 佐久間晃平  
 負けないぞ 気迫感じた 我が子の背  
 母 佐久間智美  
 あくをとる おいしくなれと 何回も  
 郡山市立郡山第二中学校 二年 村田 莉奈  
 いつもより 格別な味 子の料理  
 母 村田 美恵  
 オニヤンマ つかまるもんかと あみかわす  
 郡山市立大島小学校 二年 柳沼 祐亮  
 父の技 見せんと待ち伏せ オニヤンマ  
 父 柳沼 好男

メダカの子 うまれたほくんち だいかぞく  
 須賀川市立柏城小学校 一年 齋藤 俊輔  
 メダカ見て 微笑む我が子 愛おしい  
 母 齋藤千絵子  
 木を切れば すてきなふねが つくれるよ  
 須賀川市立白江小学校 三年 鈴木 大地  
 いつのまに 道具つかえて たのしい  
 母 鈴木久美子  
 高い山 空までとどけ ぼくは行く  
 須賀川市立柏城小学校 三年 渡辺 剛琉  
 はげまされ まごが手を引く 山のぼり  
 祖父 根本 栄  
 まつかだな ほおずき風船 音がする  
 須賀川市立第一小学校 三年 古寺 尚樹  
 パーが吹く ほおずき笛に お盆ゆく  
 母 古寺利津子  
 ばあちゃんのお話 夏のお話  
 須賀川市立第一小学校 三年 武田 永  
 夏之夜 孫に伝えん 青春歌  
 祖母 武田 正子  
 貝拾い バケツはいつか 宝箱  
 須賀川市立西袋第一小学校 五年 村越 涼  
 宝物 息子がくれた 貝飾り  
 母 村越 浩子  
 しんこきゅう バチ持つ右手 あせにじむ  
 須賀川市立西袋第一小学校 五年 藤木 沙織  
 孫のひく 三味しみで晴れの 祝い唄  
 祖父 齋藤 幸康  
 ひなつばめ 羽をパタパタ 空を見る  
 須賀川市立阿武隈小学校 六年 兼子 春菜  
 無事帰れ 空の巣見つめる 母つばめ  
 母 兼子 悦子  
 この気持ち ボール二つで 伝え合う  
 須賀川市立小塩江中学校 一年 遠藤 愛美  
 白球を 二人で追える 楽しさよ  
 母 遠藤みよこ  
 あの涙 忘れられない 宝物  
 須賀川市立第三中学校 三年 水野 紗希  
 ボランテア ふれあい感じ ありがとう  
 母 水野 玲子  
 ふろあがり ゆうやけみてる さんぼみち  
 須賀川市立西袋第一小学校 二年 村上 史畝  
 夕暮れに 手と手をつなぐ 影三つ  
 父 村上 裕志

背がのびて いっぱい乗れる 遊園地  
 鏡石町立第二小学校 四年 高杉 陸也  
 たすけてと 無言になるよ お母さん  
 母 高杉 美樹  
 ふわふわで わたあめみたいな こねこだよ  
 田村市立古道小学校 三年 今泉 雅也  
 捨て猫を 家族の仲間に 入れた夏  
 祖母 松平 久子  
 たのしくね れんだんしよう おかあさん  
 田村市立瀬川小学校 三年 三瓶 那奈  
 連弾の リズムに合わせ セミの声  
 母 三瓶 美穂  
 わきしめて ふつたら頭 基本だよ  
 田村市立船引小学校 五年 佐久間侑美  
 子がコーチ 素直にきいて 腕みがく  
 母 佐久間洋子  
 カラスの子 とうとうとべた 大空へ  
 白河市立白河第一小学校 五年 佐藤 大貴  
 いつの間に 大人びたのか わが息子  
 父 佐藤 貴  
 はんごうで たいたごはん おいしいな  
 白河市立白河第二小学校 三年 大越 尚輝  
 父さんに 今日は任せろ 晩ごはん  
 父 大越 哲雄  
 ホームラン 打とうとしても 気持ちだけ  
 白河市立白河第二小学校 五年 関根 扶  
 ミスしても 君はわが家の スポ少王子  
 母 関根 弘子  
 まつくらな へやにピカピカ ほたるまう  
 白河市立白河第三小学校 一年 小島菜子美  
 子虫を 腕にあそばせ 暑き宵  
 祖母 小島富代子  
 だっこして やわらかかった 赤ちゃんが  
 白河市立白河第四小学校 三年 鈴木 柊矢  
 病室で 握りしめる手 たくましき  
 母 鈴木 裕美  
 おいしいと 父がほうばる 豆ごはん  
 白河市立五箇小学校 三年 酒井 玲奈  
 娘とる 豆を食べ食べ 夏おもう  
 父 酒井 健一  
 ぼくのゆび 走り回るよ けんばんを  
 白河市立みさか小学校 二年 六本木 海人  
 鍵盤に 祈りをこめて 響く音  
 父 六本木 隆

負け試合 あせにまみれて なみだかな  
 白河市立釜子小学校 六年 諸橋 樹  
 子供たち 涙は力 もう一步  
 母 諸橋喜代子  
 辛いとき 家族の笑顔 を 思い出す  
 白河市立白河中央中学校 三年 小笠原侑子  
 毎日の 笑顔の影に 見る涙  
 母 小笠原美佐子  
 わらびとり 山のおくには ごちそうが  
 西郷村立小田倉小学校 三年 佐藤 遙希  
 山菜取り 娘のあとを 袋持ち  
 母 佐藤 洋子  
 さするほど いたみやわらく まほうの手  
 西郷村立米小学校 五年 永山 緑  
 孫の手に まされる名医 なかりけり  
 祖父 永山 勝  
 ハンバーグ うまくなるよと かきませる  
 中島村立滑津小学校 二年 浅野 藍  
 台所 孫と二人で かくし味  
 祖母 浅野 キイ  
 暑き日に 筆字で祖父へ 笑み贈る  
 中島村立中島中学校 一年 渡辺 紀湖  
 炎天下 かぼそい腕の 墨の二字  
 祖父 渡辺 巧  
 集金で 初めてわかる 近所さん  
 矢吹町立善郷小学校 四年 潮地 萌  
 集金で 娘もあいさつ 声はずむ  
 父 潮地 勝仁  
 せんたくは わたしがたたむ 休んでて  
 矢祭町立下関河内小学校 三年 鈴木 麻希  
 「休んでて」 やさしい言葉に つかれとぶ  
 母 鈴木 礼子  
 リズムよく ひびく蹄の 音に乗る  
 矢祭町立石井小学校 六年 鈴木 華穂  
 震える手 たづな握れば 恵比須顔  
 父 鈴木 直人  
 レッスンに 一人で行った ドイツ旅行  
 泉崎村立泉崎第二小学校 六年 熊井 桃子  
 幼顔 演奏家の顔 今の顔  
 母 熊井 日和  
 ねる時間 すきなえ本と ママのこえ  
 泉崎村立泉崎第二小学校 二年 大河原綾乃  
 日焼けした かわいい寝顔 宝物  
 母 大河原初恵

- ちつちやな手 大きくなれよ 子供達  
泉崎村立泉崎中学校 一年 佐川 美紀
- 幼な子を あやす姿に 涙する  
母 佐川 節子
- みずうみで カヌーにつつて 大ぼうけん  
棚倉町立棚倉小学校 二年 吉田 開
- たくましき むすこの背中 汗ひかる  
父 吉田 智
- 黒帯だ リーダーシップを とらなくちゃ  
棚倉町立棚倉小学校 五年 高宮 武
- 念願の 初段黒帯 うれし泣き  
母 高宮 明子
- 庭先に よちよち歩く ツバメの子  
棚倉町立近津小学校 五年 藤田 悠希
- 巣から落ち 我が子と守る 巣立ちの日  
母 藤田美恵子
- 鮎釣りを 父を手本に 真似てみる  
福島県立東白川農商高等学校 一年 遠藤 稔也
- 竿見では 我が子に掛れ 願う父  
父 遠藤 秀俊
- 心配を かけないようにと からまわり  
福島県立東白川農商高等学校 三年 鈴木 友章
- 巣立つ日を 四季追うことに かみしめる  
母 鈴木 孝子
- アルバイト 改めて知る 親の恩  
福島県立東白川農商高等学校 一年 菊地絵里香
- 貰うより 格段上がる 金の価値  
母 菊地美代子
- すきだけど ぼくさわれない かぶとむし  
棚倉町立杜川幼稚園 年少 鈴木 温翔
- いつのまに 私が夢中 カプトムシ  
母 鈴木久美子
- 浅川の 大きな空に 花が咲く  
塙町立片貝小学校矢塚分校 六年 遠藤 美咲
- 写メールの 小さな画面に 写る花  
母 遠藤すい子
- 集めても どんどん出てくる 瓶の山  
塙町立塙中学校 三年 近藤 美香
- 雨の日に うれしい助っ人 瓶集め  
母 近藤 明美
- このほんを はやくよんでよ おかあさん  
会津坂下町立若宮小学校 一年 新國 由斗
- 一冊の 本でつながる 親子の絆  
母 新國 明美
- お祭りだ たいこやふえの音 きこえいあう  
会津坂下町立川西小学校 五年 佐藤 綸平
- 子がたたく 太鼓の姿に 亡父の面影  
母 佐藤由美子
- 風やさし 父といっしょの サイクリング  
会津坂下町立川西小学校 五年 松澤 礼佳
- 声をかけ 距離を測りつ ペダルこぐ  
父 松澤 勝浩
- 墓参り 祖父似と言われ 手を合わす  
会津坂下町立第二中学校 三年 宇内 大樹
- 迎え火の 炎を見つめ 義父思う  
母 宇内 光子
- 夏休み はじめてとまる そぼのいえ  
会津美里町立本郷第二小学校 二年 佐藤 千尋
- 親離れ 心複雑 夏の夜  
母 佐藤真由美
- 星空が きれいな夜に UFOだ  
会津美里町立本郷第二小学校 三年 皆川 紘範
- UFOと 囃すこめらに 弓張月  
母 皆川あつ子
- さわのぼり きれいな川は つめたいよ  
会津美里町立本郷第二小学校 三年 渡部 悠斗
- また行こう 男同志の 冒険に  
父 渡部 三広
- こうじきん くさいにおいが うまくなる  
会津美里町立永井野小学校 三年 石田 大地
- 手作りで 大豆の生命 味噌に込め  
母 石田志津子
- お父さん 登つてくるかな 最後尾  
会津若松市立川南小学校 五年 高野 容平
- 息荒く 前行く我が子も 肩で息  
母 高野その子
- あせながし たがねをうつは 大自然  
会津若松市立荒館小学校 三年 梅津 大雅
- 発掘の めくるは昔の ページかな  
父 梅津 幸明
- トウシューズ まめができて 踊りたい  
会津若松市立荒館小学校 六年 最上ほのか
- がんばれと エールをおくる テーピング  
母 最上 恵
- プールでね ぼく歩けたよ やったあー  
福島県立会津養護学校竹田分校 二年 丸山 泰智
- キラキラと 輝く水面 笑顔咲く  
教師 佐々木文枝

すごいでしょ 大人相手に ヒット二本  
猪苗代町立猪苗代小学校 五年 東條 蒼  
お父さん 息子の球が 脇通過  
母 東條こずえ

見つけたよ 真つ黒どでかい オスカプト  
金山町立金山小学校 四年 佐々木理子  
森よ樹よ 君の心の 糧になれ  
母 佐々木悦子

この次は きつと登るぞ 槍穂先  
金山町立金山小学校 六年 遠藤早百合  
孫と来て もう一歩の 槍穂先  
祖父 遠藤 晴男

ひさしぶり ははと手つなぎ あたたかい  
喜多方市立第一小学校 二年 小荒井 輝  
上り坂 笑顔で手をひく たのもし息子  
母 小荒井真紀

笛の音に 心も重ねる 母さんと  
喜多方市立第二小学校 五年 古館 悠花  
かたならべ ふえふきおどる 夏祭り  
母 古館 恵子

いそあそび タコがとれて 大こうふん  
南会津町立田島小学校 二年 渡部 優也  
墨吐かれ 息子といっしょ 大歓声  
母 渡部 百枝

お父さん 夢で会おうよ いつまでも  
南会津町立田島第二小学校 五年 渡部 颯  
子供達 私にみせぬ 寂しさを  
母 渡部 薫

りょう手から こぼれるわたしの ミニトマト  
南会津町立針生小学校 二年 大桃 真白  
またつ きらいな野菜が へりにけり  
父 大桃 豊

はつ体けん 手からにげるよ あんこ玉  
南会津町立荒海小学校 三年 塚本 実樹  
仕事柄 見守るつもりが 口を出す  
父 塚本 泰則

ぼたぼたと おちるあせふき いもをほる  
南会津町立伊南小学校 四年 河村 里美  
孫からの そと出す水 ありがたし  
祖母 河村サキエ

じいちゃんと でこぼこがおの おいもほり  
南会津町立南郷第二小学校 二年 齋藤 文加  
芋を掘る 今年も楽し 孫達と  
祖父 齋藤 卓美

夏登山 今日のガイドは オレ様だ  
檜枝岐村立檜枝岐小学校 三年 菅家 雄矢  
ド忘れの 花を息子に 教えられ  
父 菅家 安志

とうさんと ペたペたペたた ペンキぬり  
飯館村立草野小学校 二年 菅野 飛鳥  
父と子の でこぼこもよう はけのあと  
父 菅野 富茂

さようなら ザリ子とザリオ みずのなか  
大熊町立熊町小学校 二年 大島 修治  
ザリガニで 一殻むけた 我が息子  
母 大島香代子

ゴムボート 上にまたがり ユーラユラ  
相馬市立大野小学校 六年 横山 寧乃  
娘乗る ボートのエンジン パパの足  
父 横山 尚

被爆者の 声に重なる せみの声  
相馬市立八幡小学校 五年 山家 千里  
蝉時雨 原爆の跡 たずねる子  
母 山家 真紀

だんごむし かぞくみんなでおひっこし  
相馬市立中村第一小学校 一年 伏見 竜生  
虫たちも 小さな世界で 楽しそう  
母 伏見多美子

がんばるぞ 手づくりギョーザ たんじょう日  
相馬市立中村第二小学校 二年 佐藤 大輝  
よくばるな 具がはみ出てる 小さな手  
母 佐藤ゆかり

柱傷 上へ上へと しまもよう  
相馬市立桜丘小学校 六年 阿部 輝  
早く越せ 同じ目線の 我が息子  
母 阿部 知美

見てきたよ こうべのしんさい わすれない  
相馬市立磯部小学校 二年 渡辺 智也  
つなく手が 復興の街 絆生む  
母 渡辺 美加

水をやり 大事に育てた 赤い花  
相馬市立日立木小学校 五年 松橋 美波  
母の日に 笑顔で差し出す 花しおり  
母 松橋 陽子

父がひく 三線の音に 耳すます  
相馬市立向陽中学校 二年 菊地真季子  
未来へと 娘と結ぶ 鳥の唄  
父 菊地 一智

ハンバーグ 父といつしよに つくったよ  
富岡町立富岡第一小学校 四年 大浦 由美  
ハラハラと 玉ネギきざむ 手を見つめ 父 大浦 隆実

ここ危ない すべりそうだよ 気をつけて  
富岡町立富岡第二中学校 一年 佐藤 光  
ギプスして 杖よりうれし 君の肩 父 佐藤 昌則

おひさまの においはどこに あるのかな  
浪江町立請戸小学校 一年 柴 孝成  
君がねる 布団の中に かくれてる 母 柴 かおる

ばあちゃんの おだんご汁が 一番だ  
浪江町立大堀小学校 五年 松本阿佳音  
ほめられて 作る喜び わいてくる 祖母 松本スミ子

指づかい 母に教える 木管の音<sup>ね</sup>  
浪江町立浪江東中学校 一年 佐藤 朱華  
叶えたい いつかは娘と 二重奏 母 佐藤 優美

夏休み 連弾の音<sup>ね</sup> 鳴りびびく  
浪江町立浪江東中学校 一年 石井 里奈  
ふたり弾く イーハトープの 熱い夏 母 石井 東子

くやしいな 母さんみたいに 回れない  
双葉町立双葉南小学校 三年 小野田安紗  
汗だくで たたみの上で 特訓だ 母 小野田陽子

溪流を 父と歩いて イワナつり  
双葉町立双葉中学校 一年 畑中 建佑  
見せたくて 雪どけ水に すむイワナ 父 畑中 良介

あつくても ままにくつつき ねむりたい  
南相馬市立小高幼稚園 年中 西村有佳莉  
寄り添って 夢で絵本の 続きみる 母 西村 和代

あさがおが おおきなあくび きもちいい  
南相馬市立高平小学校 四年 森本 真也  
あさがおが 朝目をさまし 咲きだした 母 森本 麻美

あせかいて なげたボールは ころころきゅう  
南相馬市立大甕小学校 一年 川島 一起  
汗光る 人生初の ストライク 父 川島 孝夫

かたたたき かあさんのツボ すぐわかる  
南相馬市立大甕小学校 三年 羽野 航汰  
背中から やさしいリズム トントんと 母 羽野 早苗

ころびそう はなさないでね もうすこし  
南相馬市立石神第二小学校 一年 志賀 月海  
風を切る 姿を思い 手を放す 母 志賀 知子

楽しいな 母とおりのり はりきるぞ  
南相馬市立上真野小学校 三年 高野 夏希  
かがやく瞳<sup>め</sup> それが我が家の かくし味 母 高野由起子

ロードレース 早く目覚めて ランニング  
南相馬市立原町第一中学校 一年 小元 健  
がんばれと 気合いの朝食 作る母 母 小元 栄子

化石堀り 楽しかったね お父さん  
南相馬市立原町第二中学校 一年 森 瑛絵  
今度こそ アンモナイトを 掘りだそう 父 森 雅博

汗ぬぐい 特製ラーメン さあどうぞ  
南相馬市立原町第三中学校 三年 村田 未来  
湯気しみて じわりと涙 シェフの味 母 村田 香里

ぞうきんを 一枚縫うにも 一苦労  
南相馬市立小高中学校 三年 坂下 絵美  
初挑戦 おどる縫い目に 浮かぶ笑み 母 坂下記久子

思い出の 重さを運ぶ 車椅子  
福島県立小高商業高等学校 三年 畠山 由香  
母乗せて 歩く背中に 涙する 父 畠山 忠

いねかりだ ピョンピョンいな<sup>い</sup> たのしいな  
南相馬市立大甕小学校 一年 川島 一起  
懐かしい 夢中になった いなご捕り 母 川島 るみ

雨の日も パパとおしゃべり ころころ晴れ  
いわき市立御厩小学校 二年 野下 久寧  
晴れやかに 話す娘に 雨上がる 父 野下 展生

よくとぶぞ ぼくが作った ブーメラン  
いわき市立中央台東小学校 三年 齋 秋平<sup>ハシ</sup>  
ブーメラン 子に飛ばし方 コーチされ 母 緑川 淑枝

むきあつて 盤を打つ音 のみひびく  
 いわき市立永崎小学校 六年 佐川 太一  
 対局し 子の王手に 席を立つ  
 父 佐川 貞幸  
 テニスコート 父に勝負を いどむ夏  
 いわき市立郷ヶ丘小学校 五年 上田 貴之  
 夏の午後 息子と打ち合う 球の音  
 父 上田 一雄  
 巣の中で おしくらまんじゅう 五兄弟  
 いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 大泉 香織  
 空の巣に 我が子の旅立ち 重ねつつ  
 母 大泉 直美  
 さといもの はっぱでつくる じゃのめがさ  
 いわき市立藤原小学校 二年 北郷 公大  
 夕立ちに ありがとさんと 身を寄せる  
 母 北郷 睦美  
 テントはり かなづち持つて お手伝い  
 いわき市立藤原小学校 二年 滝 未有  
 こっそりと マニュアル読んで できるふり  
 父 滝 克幸  
 流木が 波のりしてるよ お父さん  
 いわき市立大野第二小学校 四年 伊藤 稜将  
 流木と 親子であそぶ 夏的大海  
 父 伊藤 俊  
 千羽づる 願いをこめて 折り返す  
 いわき市立泉北小学校 六年 時田 啓介  
 この思い 乗せて羽ばたけ 千羽鶴  
 母 時田 千恵  
 じいちゃんを むかえる盆の 棚かざり  
 いわき市立泉北小学校 五年 安藤 巧  
 盆棚を 孫と飾れる 身の至福  
 祖母 安藤キヨミ  
 祖母の墓 庭に咲く花 見せたくて  
 福島県立いわき光洋高等学校 一年 先崎 麻子  
 墓そうじ 最後に並んで 手を合わせ  
 母 先崎由美子  
 いつもより 三枚多く はこべたな  
 福島県立いわき光洋高等学校 一年 高木 雄士  
 苗はこび はこぶ姿が たくましい  
 母 高木多恵子  
 コーヒーに 父への感謝 入れてみた  
 福島県立いわき光洋高等学校 一年 鈴木 夏美  
 ありがとう 口に出さずも 通い合う  
 父 鈴木 順一

パンづくり どんなかたちに できるかな  
 いわき市立高久小学校 一年 鈴木 美歩  
 焼き上がり パンも気持ちも 膨らんだ  
 母 鈴木美和子  
 まつちやのかい うすちやをのんで おとなきぶん  
 いわき市立中央台南小学校 二年 齋藤 慧  
 神妙に 大人に混じつて 抹茶デビユー  
 母 齋藤 香織  
 愛読書 れきしマンガを 父さんと  
 いわき市立平第五小学校 四年 小松美寿々  
 子と話す れきしマンガで はながさく  
 父 小松 親市  
 はじめての 漢字検定 うかったよ  
 いわき市立中央台北小学校 三年 桜山真里花  
 母と子で 毎日漢字 コツコツと  
 母 桜山 満恵  
 足つかない 海でも安心 父のそば  
 いわき市立中央台北小学校 四年 山本菜南子  
 手をつなぎ 娘と泳ぐ 暑い夏  
 父 山本 孝一  
 ふとんリレー そんなにはやくちゃ はこべない  
 いわき市立平第二小学校 五年 松田 歩華  
 突然の 雷雨にふとん 子に渡す  
 母 松田 直美  
 手本見て 祖母に教わり 筆をとる  
 いわき市立植田小学校 六年 芳賀 詩織  
 筆とれば 祖母から師匠へ 早変わり  
 祖母 徳元 英子  
 残念な 結果に泣いた コンクール  
 いわき市立平第三中学校 二年 及川 美波  
 負けたつて 母には聞こえた 金賞に  
 母 及川 孝子  
 父出張 手紙を書いて 照れわたし  
 いわき市立好間第二小学校 六年 矢吹 拓夢  
 手紙読み 家族の絆 再確認  
 父 矢吹 定則  
 いくつもの ゆれる灯籠 ものさびし  
 いわき市立植田東中学校 一年 梶川翔太郎  
 在りし日の 父の姿を 思い出す  
 母 梶川 裕子  
 盆休み いとこ膝のせ ピアノ弾く  
 いわき市立植田東中学校 三年 樋口 真彩  
 盆休み 吾子思い出す 小さき手  
 母 樋口 清香

## 一 共有体験をどう深めるか

「十七字のふれあい」事業は、今年度で六年目を迎えます。質的にも量的にも拡充の二途をたどってきました。従来は、どちらかといえば、体験活動の領域が審査の重点でしたが、近年は、子と親等とのどのような共有体験をどう深め心の架け橋を結んだか、そのレベルが審査の基準となってきました。

例えば、「遊びの中の本気度」「仕事を通しての汗」「歌や読書を通しての共感度」「自然との触れ合い方とその「体感」等々です。

かけがえのない世代間の交流・交歓体験が人々の心情の絆を育む契機となることを願っています。

(塚本 繁)

## 二 確かな絆

優れた多くの作品から共有体験に基づく感想・感動を読み取ることができました。

あわせて「父母と子」「祖父母と孫」「教師と生徒」「地域の方と子ども達」などの活動場面に誘われ、確かな絆で結ばれている温かい情景を思い浮かべることができました。

(坂本 忠雄)

## 三 よりよい作品作りのために

六年を経過して、応募数の増加が見られうれしい限りです。傾向として、過去の作品の類想的な作品が多く見られました。また、表記についても誤りが目につきました。そばに辞書を置き、常にご利用することも作品作りをする上で大切なことです。

(津村 栄)



## 四 推敲の大切さ

十七字のふれあい作品は、ふれあい・真心が通い合うことの大切さとともに、日本語の美しさ・リズムを大事にしていくものです。作品には、五・七・五ではなく破調の場合も時にはありますが、この場合は、上の句を多めに言葉を変えたりしていくとリズム的にすっきりすると思えます。

(坂本 忠雄)

審査員長 塚本 繁  
審査員 津村 栄  
審査員 坂本 忠雄

## めどがき

本年度は、三万八千二十四組の応募があり、何と昨年の一・六倍を数えました。本当に多くの御応募をいただきありがとうございます。この事業が県民の皆様の間に大きく広がっていると感じます。子どもと大人が共通に体験したことを、十七音で表現する過程をとおして、心の交流が深まり感動をしっかりと刻むことができます。そうした活動の中から、今の時代だからこそ大切な思いやりの心や豊かな感性が層磨かれるのだと思います。

ささやかな日常の一瞬のきらめきやほのぼのと心温まる交流など、この作品を御覧になった皆さんが、さまざまな十七字のふれあいを感じとっていただければ幸いです。